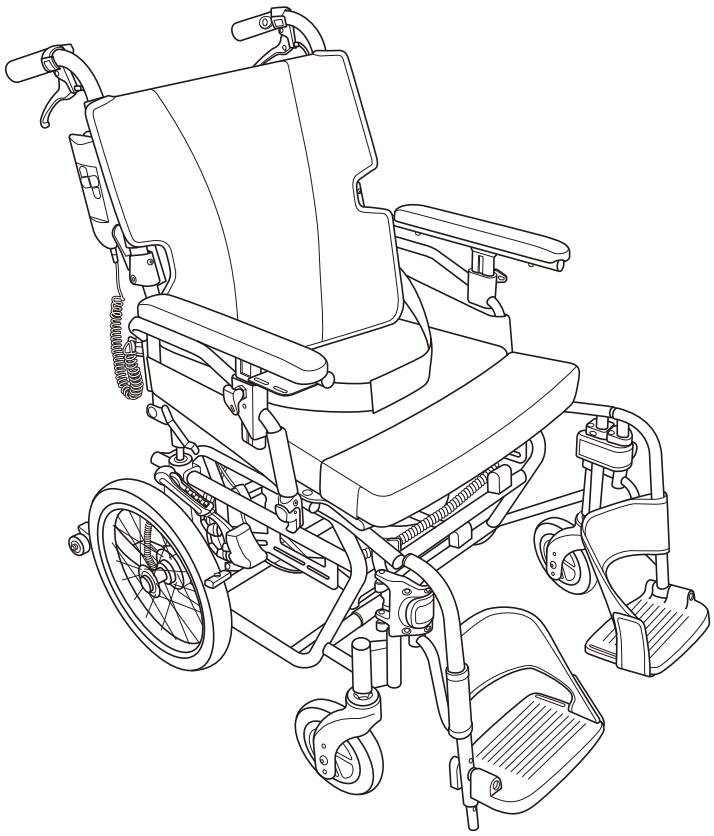
立ち上り電動補助車いす

KJP-14ETM

取扱説明書



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用の前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状況・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

目　次

はじめにご確認ください	**2**
使用目的・特徴	**2**
安全上のご注意	**2〜7**
各部のなまえ	**8〜9**
使いかた	**10〜21**
ブレーキのかけかた	10〜11
シートの取り付け・取り外し	12〜13
アームサポートの跳ね上げ	14
フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付け	15
バッテリの取り扱い	16
座面の昇降のしかた	17
乗り降りのしかた（座面昇降を使用しない場合）	18
乗り降りのしかた（座面昇降を使用する場合）	19〜20
手押しハンドルの下げかた・上げかた	21
転倒防止装置の取り付け・取り外し	21
各部の調節のしかた	**22〜28**
アームサポートの高さ調節	22
座面の高さ調節	23〜27
バックサポートの張り具合調節	28
使用上のご注意	**29〜32**
保守・点検	29
お手入れ・保管について	29〜30
航空機への搭載について	30
日本国外の使用について	30
走行上のご注意	31
段差介助のしかた	31
車いすの持ち上げかた	32
本製品の処分について	**32**
車いす本体・充電器の処分	32
バッテリの処分	32
困ったときには	**33〜34**
仕様	**35**
アフターサービス	**裏表紙**
保証	**裏表紙**

本書で使用している画像・イラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。
製品向上のため、本書に記載している仕様の全部、または一部を予告なく変更することがあります。

Wheel Chair MiKi

はじめにご確認ください

はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべて入っていることを確認してください。

- **車いす本体**
- **背アウターシート**
- **座クッション**
- **フット・レッグサポート**
- **レッグサポート**
- **充電器（充電器+電源ケーブル）**
- **工具（スパナ 2ケ　六角レンチ5mm・4mm・3mm 各1ケ）**
- **取扱説明書（本書）**
- **保証書**
- **保護キャップ（端子保護用）※**

※修理・整備時に必要になることがあります。工具と一緒になくさないよう保管してください。

ご使用前の準備は、下記の項目をお読みください。

- **P.12　シートの取り付けかた**
- **P.15　フット・レッグサポートの取り付け・取り外し**
- **P.16　バッテリ・充電器について**
- **P.17　座面昇降のしかた**

使用目的・特徴

本製品は、一人乗り用の手動式車いすです。本製品に搭乗しての移動と、休息を使用目的としています。
特殊な身体保持具、バックサポート（背）角度の調整機構等がなく、介助者が操作する介助用標準型車いすです。
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。
電動による座面の昇降機能を装備しています。座面を昇降させることで、移乗時に使用者の負担を低減することが可能です。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

表示の意味

⚠危険　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

記号の意味

⚠　警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠　禁止の行為であることを告げるものです。

❗　行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。

⚠危険

車いすの操作、取り扱いについて

スピードを出さない。

スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



下り坂では、車いすを後ろ向きにして、ゆっくり下りる。

制動用ブレーキレバーを使い、スピードを落としてください。

フットサポートの上に乗ったり、立ち上がったりしない。

主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車する。

坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

座面を上昇させた状態で、車いすの移動、段差の乗り越えおよび車いすを持ち上げない。

使用者が転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

フットサポートに足を乗せたまま、座面の昇降をしない。

使用者が前方に転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

エスカレーター（車いす対応エスカレーターを除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）では使用しない。

転落や転倒など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターを利用する際は、必ず施設管理者の指示に従ってください。

座面の昇降の際は、必ず水平で平坦な場所で行う。

坂道や段差のある場所で座面を昇降させると、車いすが予期せぬ動きをすることがあり、転倒など事故につながる恐れがあります。

バッテリ、充電器の取り扱いについて

火の中に入れない。

指定されたバッテリ以外は使用しない。

⚠警告

車いすの操作、取り扱いについて

座面の昇降をする際は、使用者は必ずシートベルトを装着する。

座面の昇降をする際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかける。

ブレーキをかけていないと車いすが突然動きだして、使用者が転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

座面の昇降をする際は、バックサポート、座シート、アームサポート、フット・レッグサポートやフレームのすき間に指や手足を入れない。

身体がはさまれて、事故やけがにつながる恐れがあります。

各部を調節する際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行う。

車いすが動きだして、事故やけがにつながる恐れがあります。

駐車用ブレーキレバーに体重をかけない。

レバーやフレームが破損・変形して、転倒する恐れがあります。

使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認する。

ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

前かがみの状態など、車いすの前方向へ体重をかけない。

座面の後方が浮き上がり、前方に転倒する恐れがあります。

自動車の座席として使用しない。

本製品は、車いすに座ったまま自動車等に乗車することを前提に設計されたものではありません。車いす移動車の座席として使用した場合、車載時の負荷により、車いすが破損する恐れがあります。

走行中に駐車用ブレーキを使用しない。

転倒など事故につながる恐れがあります。

乗り降りの際および停止時、車いすから離れるときは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかける。

ブレーキがかかっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

滑りやすい路面や濡れた路面では、路面の状況やまわりの安全に十分注意しながら、慎重に操作する。

制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかける。

転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポート、フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げない。

部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。

走行中は、座面の昇降、アームサポートの跳ね上げ、高さ調節、フット・レッグサポートの回転等の操作をしない。

事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートを跳ね上げた状態で走行しない。

使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートを戻した後は、アームサポートが確実に固定されていることを確認する。

使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを回転させた状態で車いすの操作をしない。

フット・レッグサポートを取り外さず回転させたまま使用すると、駐車用ブレーキや障害物との接触などにより、事故やけがにつながる恐れがあります。

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わない。

製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠警告

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしない。

過度の荷物はバランスを崩して、転倒する恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないように注意する。

けがをする恐れがあります。

タイヤ、キャスタが摩耗した状態で使用しない。

タイヤ、キャスタが摩耗すると、駐車用、制動用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店へお問い合わせください。

走行時、タイヤの摩擦による床面の汚れや傷つきに注意する。

クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると床面に汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。

座面の高さ調節は、販売店へ依頼する。

フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認する。

使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートの跳ね上げ時およびフット・レッグサポートの回転時は、可動部に身体や衣服を引っ掛けたりはさんだりしない。

けがをする恐れがあります。

乗り降りの際は、アームサポート、フット・レッグサポート、操作リモコンなどに身体や衣服を引っ掛けないように注意する。

転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

車いすやバッテリ、充電器を水洗いしたり、水で濡らしたりしない。

故障や漏電の原因となります

車いすを後方へ進行や旋回させるとき、背折れジョイントが障害物に当たらないように注意する。

背折れジョイントのロックが外れて、後方へ姿勢をくずす恐れがあります。

バッテリ、充電器の取り扱いについて

高温多湿の場所に放置しない。

バッテリの発熱や破損の原因となります。

水の中に入れたり、濡らしたりしない。

バッテリの発熱や破損の原因となります。

端子をショートさせない。

バッテリの漏電や発熱の原因となります。

分解・改造をしない。

落下させたり、衝撃を与えない。

充電は専用充電器を使う。

専用の充電器以外を使用すると、バッテリの漏電や発熱の原因となります。

⚠注意

車いすの操作、取り扱いについて

子供が触れやすい場所には放置しない。
誤って電源が入ると、車いすが予期せぬ動きをすることがあります。

指定された耐荷重を守る。
最大体重(積載物も含む)は130kgです。体重制限を守って使用してください。

二人以上の乗車や、目的以外で使用しない。
この車いすは一人用です。

アームサポートの高さを調節した後は、必ずロックされていることを確認する。

操作中に異常な音や振動が発生したら、ただちに使用を中止する。
事故やけがにつながる恐れがあります。

フットサポートの下には足を入れない。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認する。
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

使用前に、主輪、キャスタ、駐車用ブレーキ等のネジがゆるんでいないか点検する。
ネジ等がゆるんだ状態で使用すると、部品のガタツキや脱落などの原因となり、事故やけがにつながる恐れがあります。

使用者の乗車中、背折れジョイントの操作を行わない。
背折れジョイントのヒンジ部分で手や腕をはさんだり、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

段差を超えるときは、車いすに衝撃を与えないよう、ゆっくりと操作する。

背折れジョイント、アームサポート、フット•レッグサポートなどの可動部に指や身体をはさまないように注意する。

走行中、足がフット•レッグサポートから落ちないように注意する。
事故やけがにつながる恐れがあります。

駐車ブレーキをかけたまま走行しない。
タイヤの異常摩耗の原因となります。

走行中、身体を乗り出さない。
走行の安全を損ない危険です。

フットサポートを足で上げる際は、素足では行わない。
けがをする恐れがあります。

使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しない。
車いすの破損や故障の原因となります。

フット•レッグサポートのすき間に手や足を入れない。
けがをする恐れがあります。

車輪・キャスタを他のサイズや種類に変更しない。

シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しない。
製品を傷める恐れがあります。

車いすが結露しているときは使用しない。
車いすの故障や漏電の原因となります。

静電気やシート生地への毛羽付着に気を付ける。
フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによってシート生地に毛羽が付着することがあります。衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除くか、市販の静電気防止スプレーを使用するなどしてください。

⚠注意

車いすを暖房器具に近づけない。



タイヤの表面や樹脂部品が溶けたり、バッテリやモーターが破損する場合があります。
破損した場合はただちに使用を中止して、お買い上げの販売店へお問い合わせください。

車いすを持ち運ぶ際や、自動車などへ載せる際および積み下ろす際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけて、駆動輪が回転しない状態で行う。

車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。

シャワーや入浴には使用しない。

水分や湿気などにより故障する恐れがあります。

座面の昇降時は、コントローラーのコードが車いすや床面にはさまないように注意する。

故障や漏電の原因となります。

バッテリ、充電器の取り扱いについて

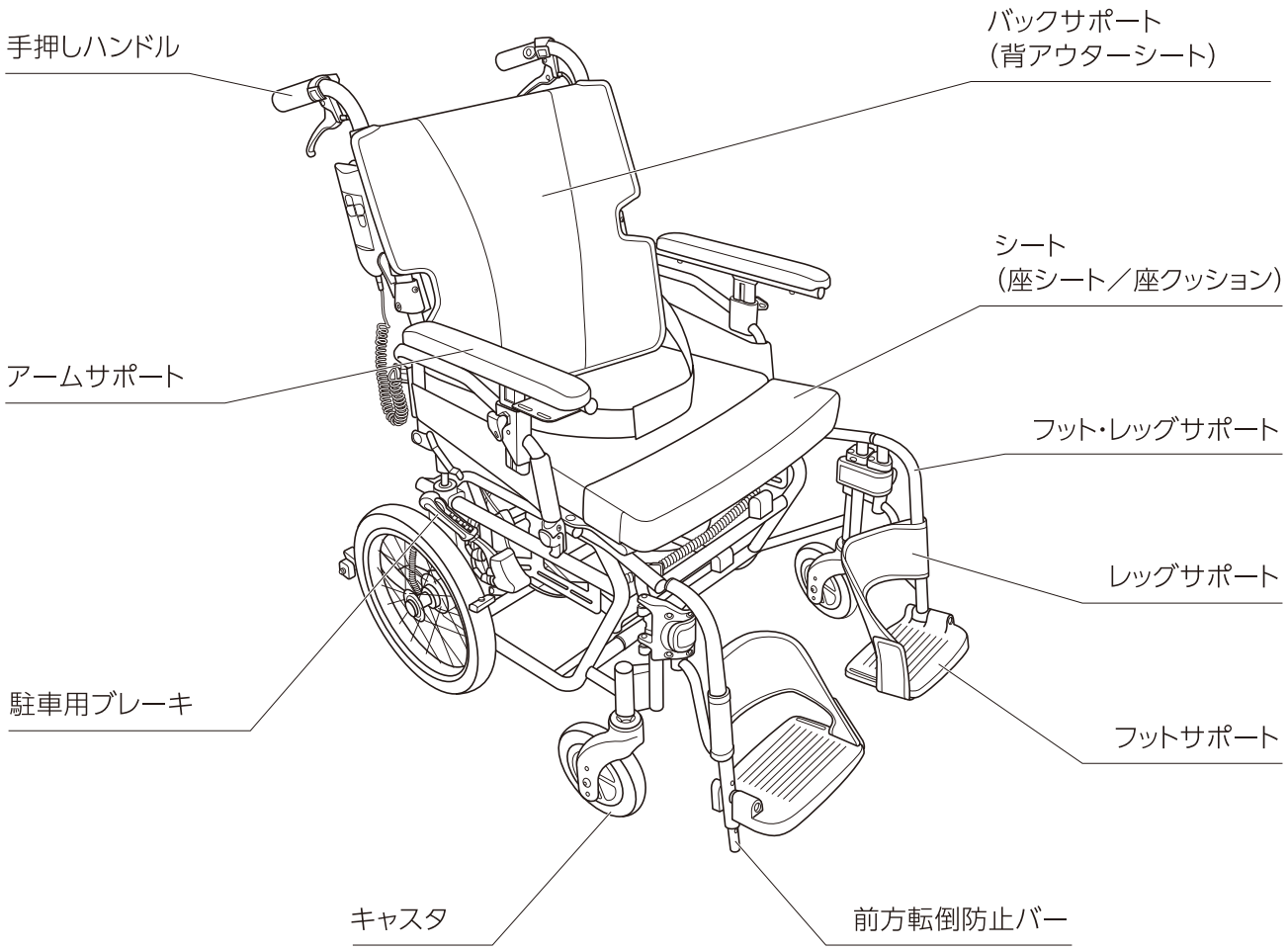
車いすや充電器の配線を引っ張らない。

車いすの故障や漏電の原因となります。

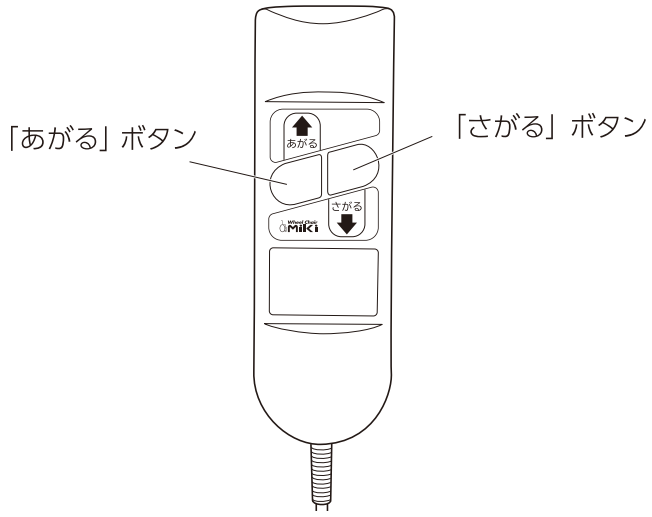
長期間使用しないときでも、2ヶ月に一度、定期的に充電する。

各部のなまえ

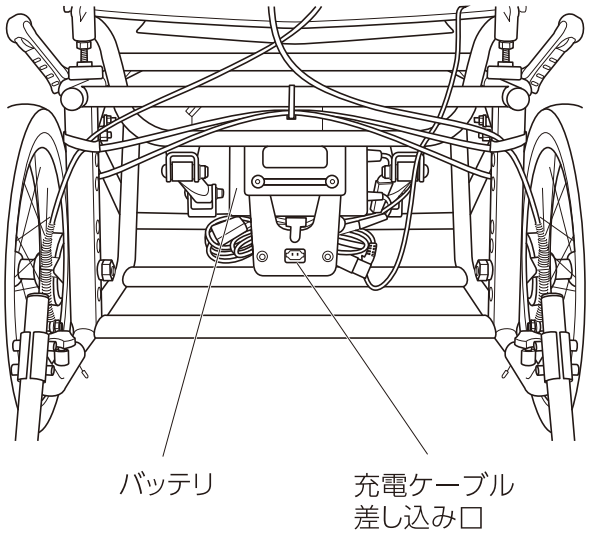
本 体

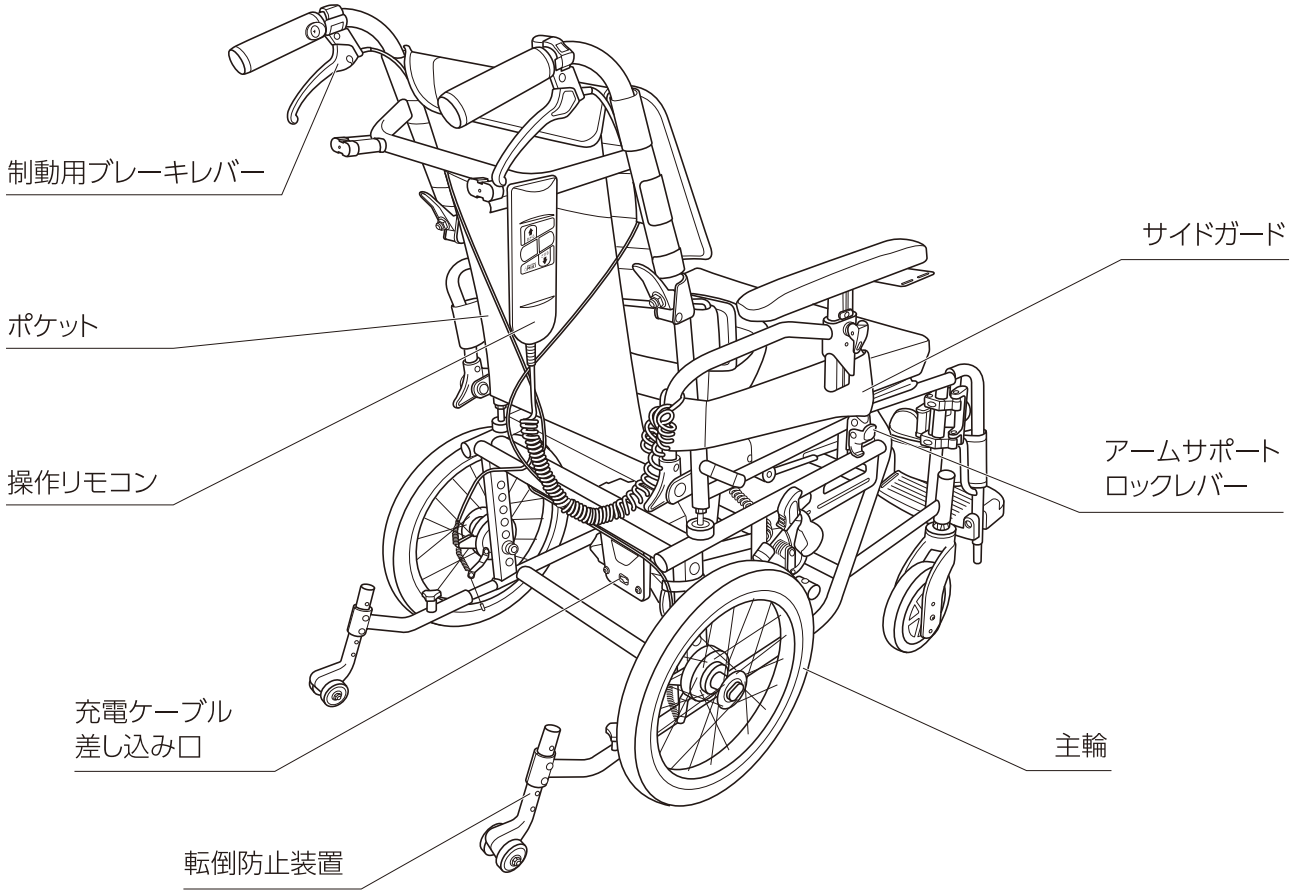


操作リモコン

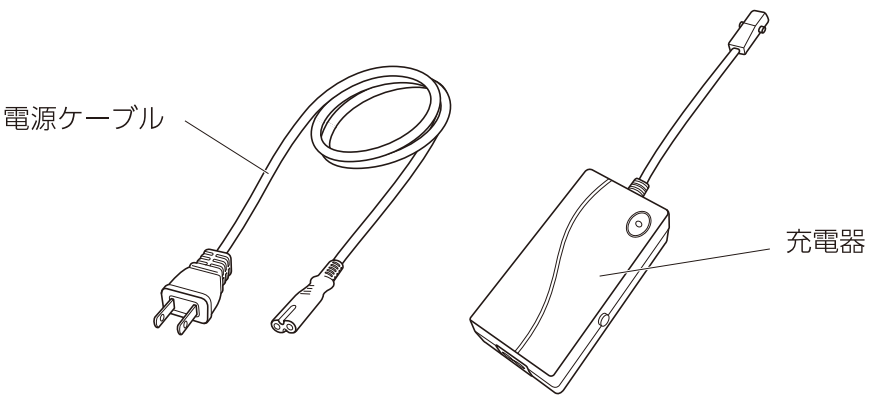


車いす下部




制動用ブレーキレバー
ポケット
操作リモコン
充電ケーブル
差し込み口
転倒防止装置
サイドガード
アームサポート
ロックレバー
主輪

充電器


電源ケーブル
充電器

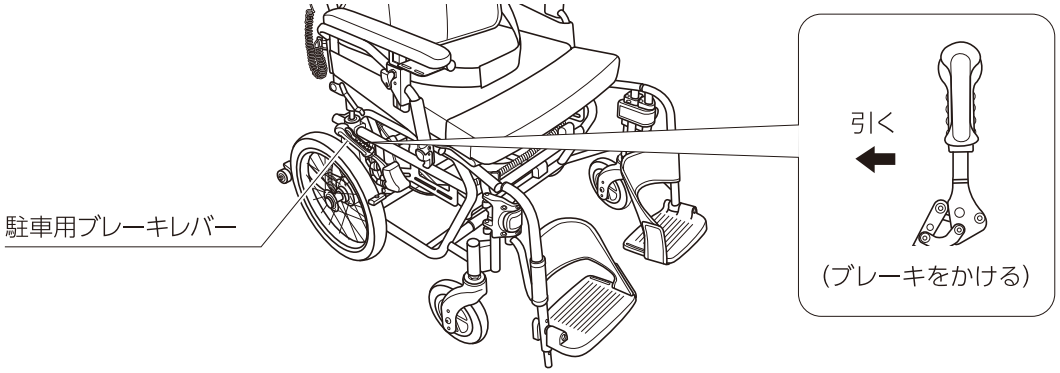
ブレーキのかけかた

⚠警 告

- 乗り降りの際、停止時および座面の昇降時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっていないと車いすが動きだして、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- 駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形して、転倒する恐れがあります。
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- タイヤの摩耗や劣化に注意してください。タイヤが摩耗や劣化すると、駐車用ブレーキが効かなくなる恐れがあります。ブレーキの効き具合が悪いときは、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
- 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒など事故につながる恐れがあります。

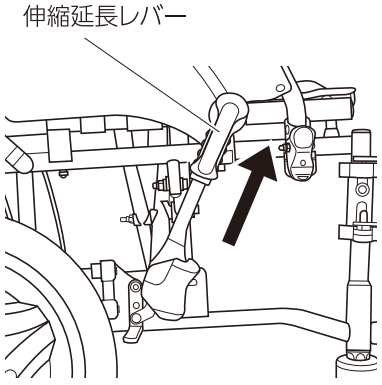
駐車用ブレーキのかけかた

使用者もしくは介助者が、左右の駐車用ブレーキレバーを後方に引いてかけます。
※駐車用ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



スライド延長ブレーキについて

伸縮延長レバーを伸ばすと、軽い力でブレーキを操作することができます。
長さを変更する際は、伸縮延長レバーがカチッと音がしてロックされるまでしっかりと上へ引き上げてください。
元に戻す際は、伸縮延長レバーを手のひらなどを使って下に押し込んでください。

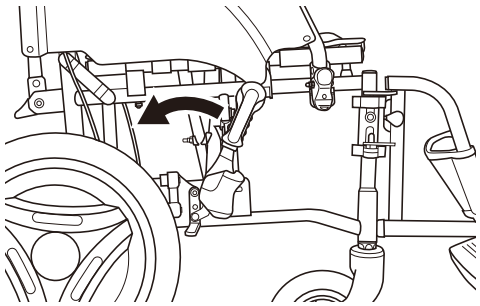


ワンハンドブレーキについて

ワンハンドブレーキは左右いずれか一方のレバーを引くことで、両輪の駐車用ブレーキをかけることができます。

⚠注 意

- ワンハンドブレーキは左右のブレーキが連動して動きます。手や指をはさまないように注意してください。
- ワンハンドブレーキをかけた際は、操作側と反対側の両方のブレーキがしっかりとかかっていることを確認してください。ブレーキのかかりが緩いと車いすが動きだして、転倒する恐れがあります。



制動用ブレーキのかけかた

⚠危 険

- スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。
- 急な下り坂で介助するときは、車いすを後ろ向きにして、ゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。
- 雨の日など路面、タイヤが濡れている状態では、本来の制動力を得られないことがあります。十分に注意したうえで操作してください。

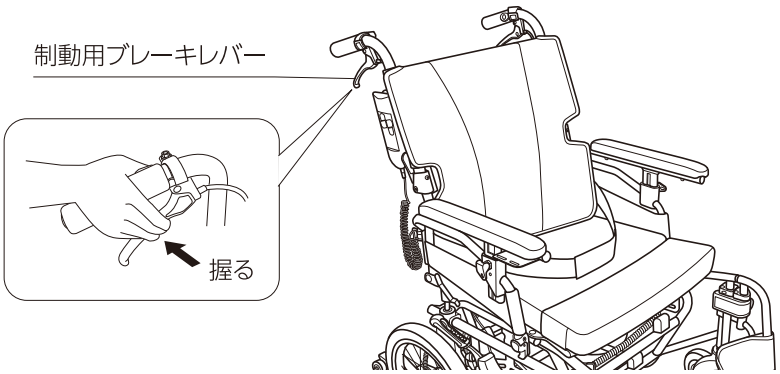
⚠警 告

- 制動用ブレーキは、介助者がレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠注 意

ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。（交換の目安：1年に一度）

介助者が、左右の手押しハンドル下側の 制動用ブレーキレバーを左右同時に握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。



シートの取り付け・取り外し

⚠注 意

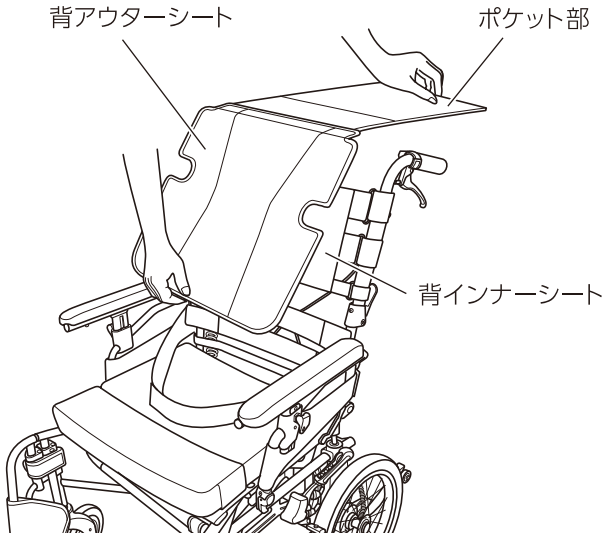
- 作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- 使用者が乗車していない状態で作業してください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れがついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。つけ外しの際は、面ファスナー部分が衣服に接着するとほつれなど衣服を痛める恐れがあります。
  また、面ファスナーの接着が弱くなる原因にもなりますので注意してください。
- シート取り付けの際は、アウターシートとインナーシートの面ファスナーを両側から押さえて、確実に固定するように接着させてください。

背アウターシートの取り付けかた

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 背アウターシートのポケット側を後ろにして、折り目部分が上にくるように、車いす本体に合わせます。

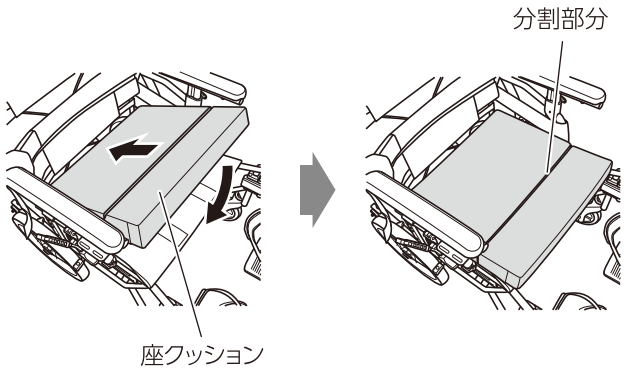
3 背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせます。

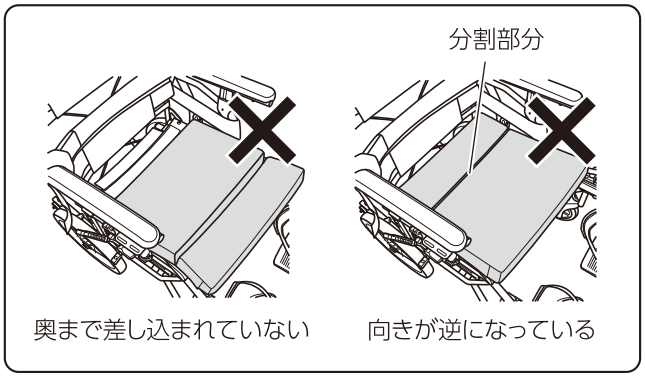


座クッションの取り付けかた

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 座クッションの分割部分を前方にして、車いす本体の座インナーシート表面の面ファスナーと貼り合わせます。





> ⚠警 告　必ず付属の座クッションを使用してください。市販品など別のクッションを使用すると、座面昇降が正しく機能しない恐れがあります。

> ⚠注 意　座クッションは正しい向きで取り付けてください。間違えて取り付けると、座面昇降が正しく機能しない恐れがあります。

レッグサポートの取り付けかた

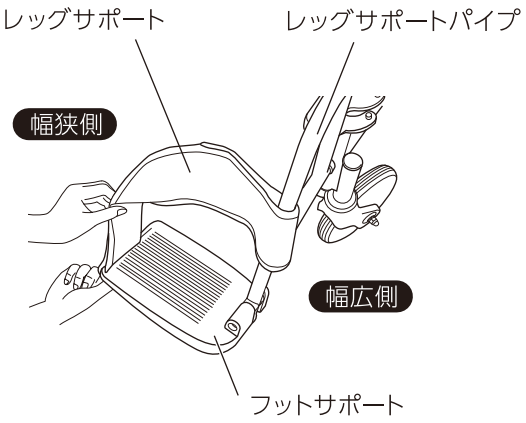
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 レッグサポートの幅広側の端を車いすの本体のレッグサポートパイプに巻き付け、面ファスナーを貼り合わせます。

3 レッグサポートの幅狭側の端をフットサポート先端の前後どちらかの穴に差し込みます。

4 穴に通したレッグサポートの端を折り返して、面ファスナーを貼り合わせます。

5 反対側も同様の作業を行います。



アームサポートの跳ね上げ

アームサポートをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。
ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行うことができます。

⚠警 告

- アームサポートの跳ね上げは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。

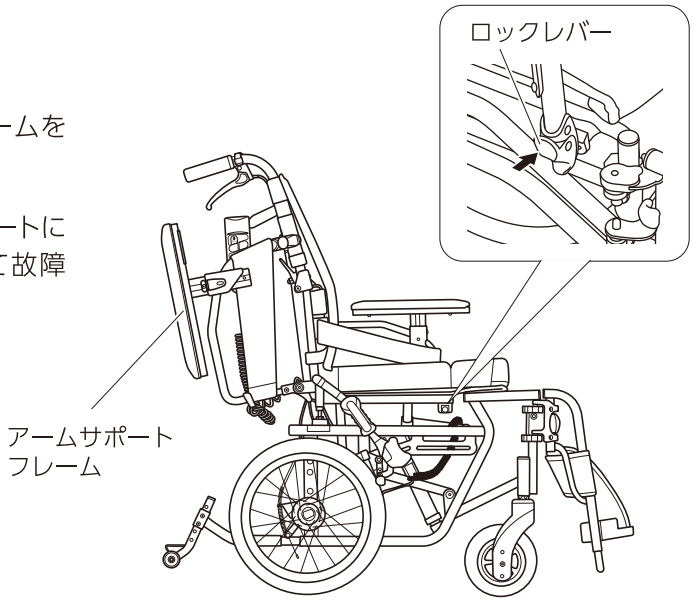
⚠注 意 アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

跳ね上げかた

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを持ちあげて後方へ跳ね上げます。

※アームサポートを上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。フレームが変形して故障の原因となります。



戻しかた

⚠警 告 アームサポートを下ろすときは、身体や衣服をはさまないように注意してください。

アームサポートを下ろして、元の位置に戻します。

※アームサポートを下ろした後は、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。

⚠警 告 アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付け

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉させたり、取り外すことができます。車いすへの乗り降りの際は、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠警 告

- フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 乗り降りの際は、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- フット・レッグサポートの開閉時、フット・レッグサポートに身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。
- フット・レッグサポートを開いた状態で、車いすの操作をしないでください。
- フット・レッグサポートを戻した後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

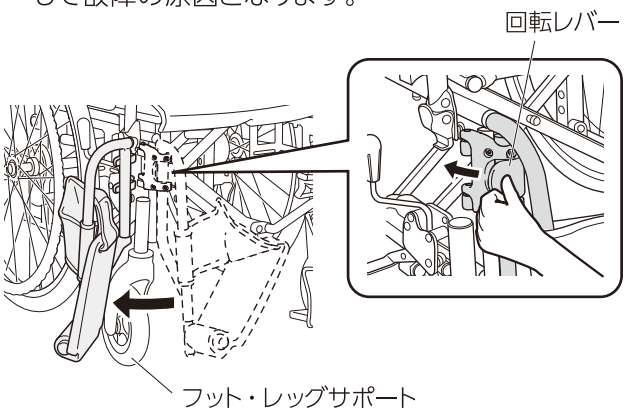
⚠注 意

フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、使用者の脚をフットサポートから降ろした状態で行ってください。

開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

※フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。部品が変形して故障の原因となります。



閉じかた

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

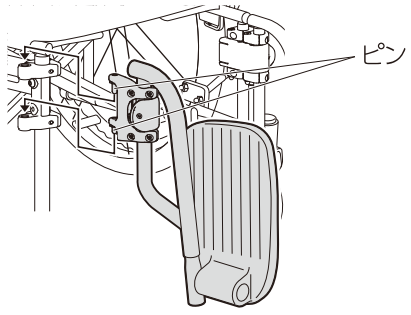
※フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。
※フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

取り付けかた

1 本体フレーム側の回転軸穴に、フット・レッグサポート側のピンを合わせて、垂直に上からはめこみます。



2 フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。

※フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないように注意してください。
※フット・レッグサポートを閉じた後は、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。

バッテリの取り扱い

⚠危険
- 専用の充電器以外は使用しないでください。
- 端子部分を金属等で触れたり、ショートさせないでください。
- 濡れた手でバッテリや充電器に触れないでください。
- 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。

⚠警告
- 高温多湿の場所に放置しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、落下させたりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。

⚠注意
- 作業は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ケーブルを抜き差しする際、必ず電源プラグやコネクタ部を持ってください。コードを引っ張って外さないでください。
- 充電が終わったら、すみやかに電源プラグをコンセントから抜き、コネクタをバッテリから外してください。
- バッテリは自己放電により、使用していなくてもバッテリの容量は少しずつ減っていきます。バッテリは長時間使用しないときでも、2ヶ月に一度、定期的に充電してください。

バッテリの充電

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 充電器のコネクタを、車いすの充電ケーブル差し込み口に差し込みます。

3 電源ケーブルのコネクタを、充電器に差し込みます。

4 電源ケーブルのプラグを、コンセントに差し込みます。(AC100V)

5 充電器にある充電ランプが点灯します。

●(赤)点灯…充電中　●(緑)点灯…充電完了

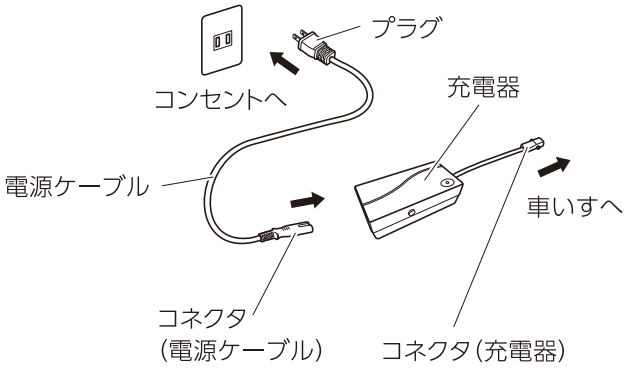
充電時間　約3～6時間

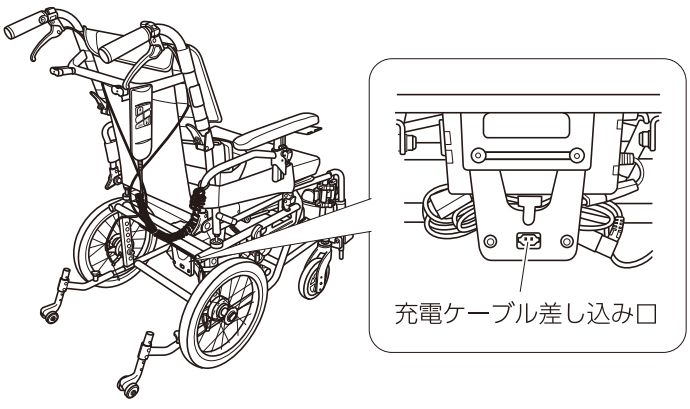
※容量が空の状態から満充電までの目安です。

6 充電が完了したら、電源ケーブルのプラグを、コンセントから外します。

7 車いすの充電ケーブル差し込み口から、充電器のコネクタを外します。

8 電源ケーブルのコネクタを、充電器から外します。





バッテリの取り外し・交換

バッテリの取り外し・交換は、お買い上げの販売店へ依頼してください。

座面の昇降のしかた

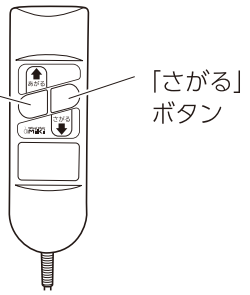
本製品は電動による座面の昇降機能を装備しており、座面を昇降させることで、移乗時に使用者の負担を低減することが可能です。
座面の昇降機能を使用して車いすに乗ったり、車いすから立ち上りする際は、
「P.19　座面昇降を利用した乗りかた・立ち上がりかた」をお読みください。

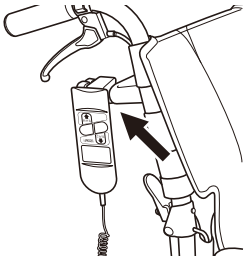
> ⚠注 意　本製品は、電源オン／オフのスイッチがありません。コントローラのボタンが電源オン／オフの機能を兼ねています。

操作リモコンについて

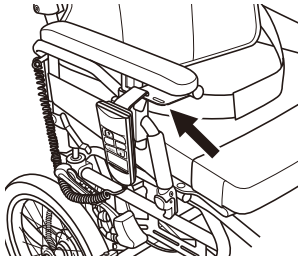
操作リモコンを操作することで、車いすの座面を昇降させることができます。

使用しないときは、コントローラを所定の位置にかけることができます。





背面側

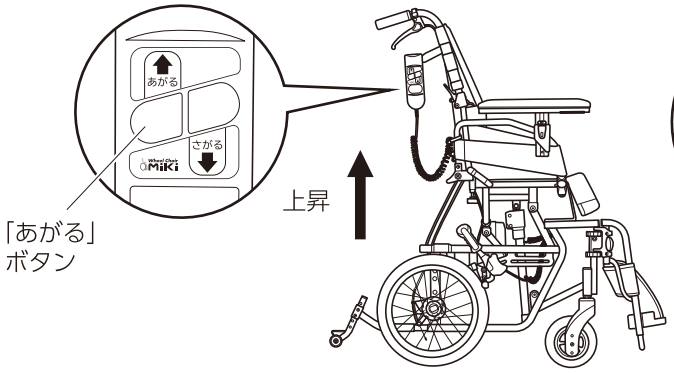


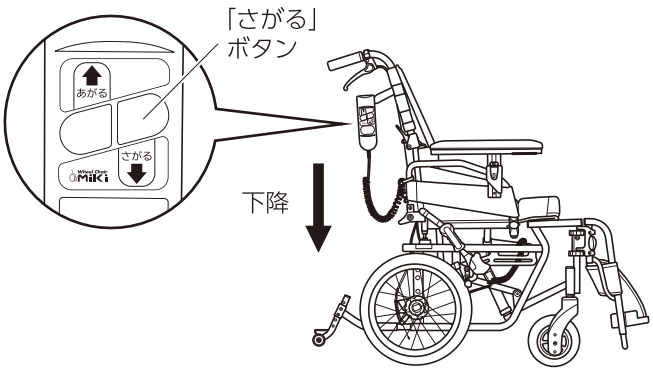
ホルダー（アームサポート部）

操作のしかた

1　両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2　操作リモコンの「▲（「あがる」ボタン）」を押している間、座面が上昇します。
操作リモコンの「▼（「さがる」ボタン）」を押している間、座面が下降します。
※ボタンから手を放すと、座面の昇降が止まります。
※座面が最大まで上昇、または下降して動きが止まったら、すみやかにボタンから手を放してください。





> ⚠警 告
> - 連続で上昇・下降をさせる際は「1分まで」としてください。長時間連続で操作すると、ユニット故障の原因となります。
> - 座面の昇降時に、バックサポート、座シート、アームサポート、フット・レッグサポートやフレームのすき間に指や手足を入れないでください。身体がはさまれて、けがにつながる恐れがあります。
> - 座面を下降させる際、操作リモコンのコードを車いすのフレームにはさまないようにしてください。

乗り降りのしかた（座面昇降を使用しない場合）

⚠警告

- 乗り降りの際は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだして、大変危険です。
- 車いすに乗り移る際は、フットサポートの上には乗らないでください。転倒して、けがをする恐れがあります。
- 上げたフットサポートが足に当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

乗りかた

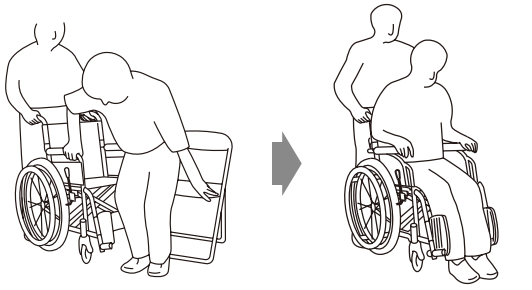
1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 フットサポートを両側とも上げます。

※フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
※上げたフットサポートが足に当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

3 必要に応じて、「アームサポートの跳ね上げ（⇒P.14）」や、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し（⇒P.15）」を行います。

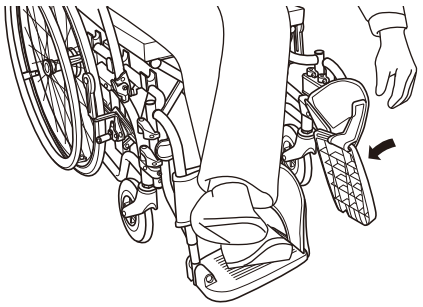
4 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



車いすを保持し腰を浮かせる　　ゆっくり乗り移る

5 「アームサポートの跳ね上げ」、「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」、を行っていた場合は、元に戻します。

フットサポートを下ろして両足を乗せます。



降りかた

「乗りかた」と逆の手順で行ってください。

乗り降りのしかた（座面昇降を使用する場合）

座面昇降を利用した乗りかた

⚠警 告

- 座面を昇降させて乗り降りする際は、使用者の適切な位置を確認しながら座面の位置を調節してください。座面の上げすぎ、下げすぎに注意してください。
- 座面昇降を利用して乗り降りする際は、アームサポートは下ろした状態にしてください。アームサポートを跳ね上げた状態では、乗り降りの際に手を支える部分がないため、身体を安定させることができず、使用者が転倒する恐れがあります。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 アームサポートは下ろした状態にします。(⇒「P.14 アームサポートの跳ね上げ」)

3 フットサポートを両側とも上げます。またはフット・レッグサポートを取り外します。(⇒「P.15　フット・レッグサポートの開閉・取り外し」)

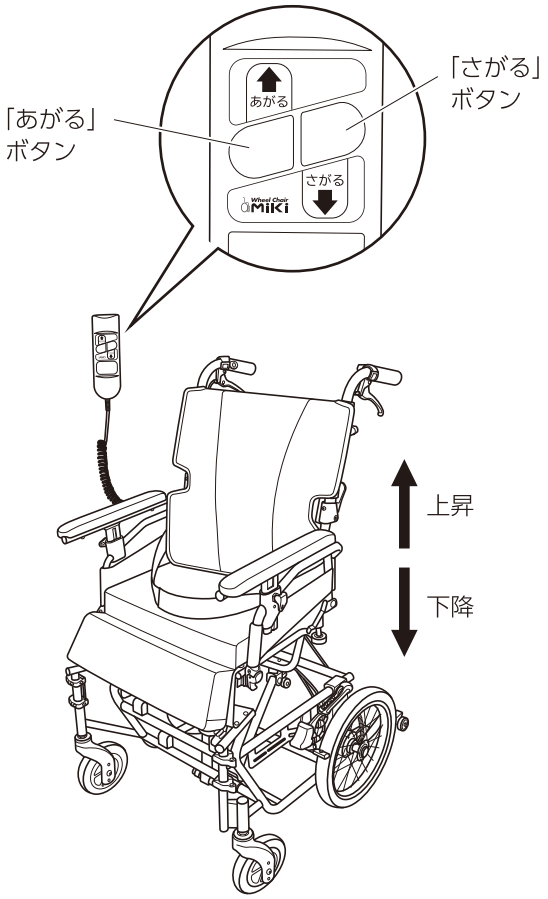
4 操作リモコンの「▲(「あがる」ボタン)」を押して、座りやすい高さまで座面を上昇させます。

5 アームサポートに手をかけて、車いすの正面から腰を下ろします。

6 シートベルトを取り付けて、身体を固定します。

7 操作リモコンの「▼(「さがる」ボタン)」を押して、座面を下降させます。

8 フット・レッグサポートを外した場合は、フット・レッグサポートを取り付けます。
フットサポートを下ろして両足を乗せます。
(⇒「P.15 フット・レッグサポートの開閉・取り外し」)



座面昇降を利用した立ち上りかた

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 シートベルトを取り付けます。

3 アームサポートは下ろした状態にします。(⇒「P.14 アームサポートの跳ね上げ」)

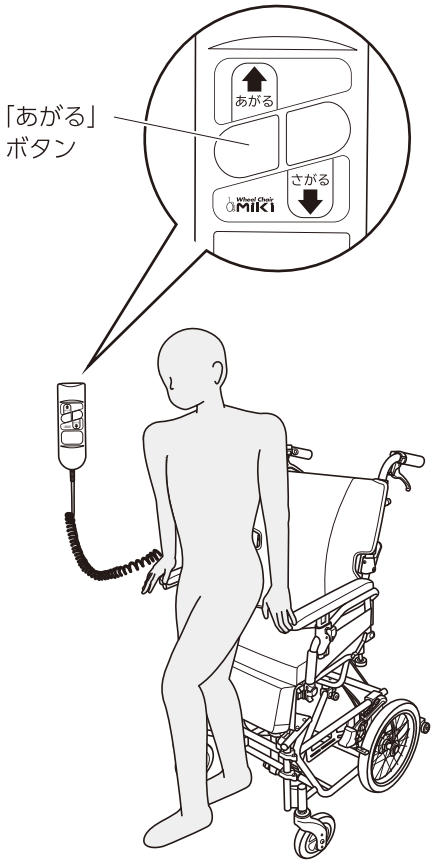
4 フットサポートを両側とも上げます。またはフット・レッグサポートを取り外します。(⇒「P.15 フット・レッグサポートの開閉・取り外し」)

5 床に両足をつけて、立ち上がれる体勢にします。

6 操作リモコンの「▲(「あがる」ボタン)」を押して、立ち上りやすい高さまで座面を上昇させます。

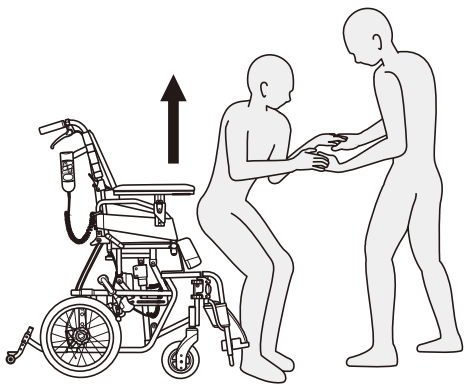
7 床に両足をつけて、立ち上がれる状態であることを確認してから、シートベルトを外します。

8 アームサポートに手をかけて、車いすから立ち上がります。



介助者が立ち上りの補助を行う場合

介助者は、使用者の正面に立って、立ち上りの補助を行ってください。
使用者の状態に応じて、シートベルトの取り付け／取り外しを行ってください。
リハビリセラピストや販売店の指導のもと、操作方法を習得することをお奨めします。



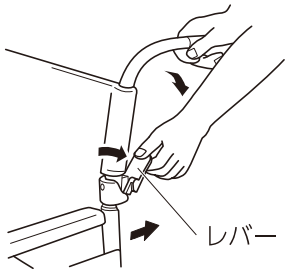
手押しハンドルの下げかた・上げかた

収納スペースが足りない場合は、手押しハンドルを下げることによって、車いすの高さを抑えることができます。

⚠注 意
- 操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- 背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。
- 背折れジョイントを上げる際は、開口部にシートを巻き込まないように注意してください。ジョイントが完全にロックされない恐れがあります。また、シートの破損につながる恐れがあります。
- 後方へ進行や旋回をするときに、背折れジョイントが障害物に当たらないように注意してください。背折れジョイントのロックが外れて、後方へ姿勢をくずす恐れがあります。

下げかた

背折れジョイントのレバーを引いて、両側の手押しハンドルを下げます。

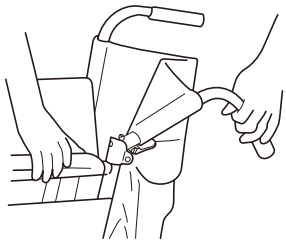


レバーを引き
手押しハンドルを下げる

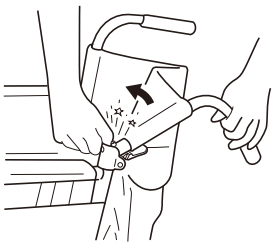
上げかた

両側の手押しハンドルを上げます。

※背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。
※開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。



手押しハンドルを両側とも上げる



手をはさむ恐れあり

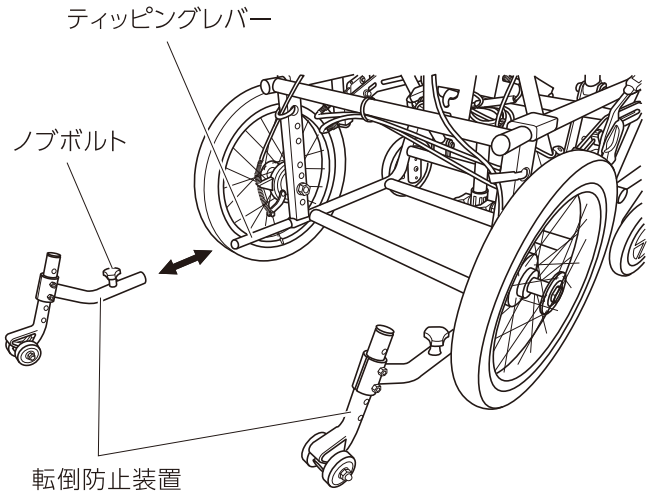
転倒防止装置の取り付け・取り外し

⚠注 意　操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。

取り付けかた

転倒防止装置（2本）を、図の向きにしてティッピングレバーに差し込み、ノブボルトで締め付けて固定してください。

※転倒防止装置が一時的にじゃまになるときは、取り外すことができます。通常は、転倒防止装置を図のように取り付けた状態で使用してください。



取り外しかた

ノブボルトをゆるめて、転倒防止装置をティッピングレバーから引き抜いてください。

アームサポートの高さ調節

アームサポート高さを3段階に調節することができます。
使用者の体格に合わせて高さを調節してください。

⚠警 告

- アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて、事故やけがにつながる恐れがあります。
- 高さ調節をした後は、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。
- 高さ調節の際は、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないように注意してください。
- アームサポートの左右を入れ替えたり、前後の向き入れを変えて使用しないでください。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

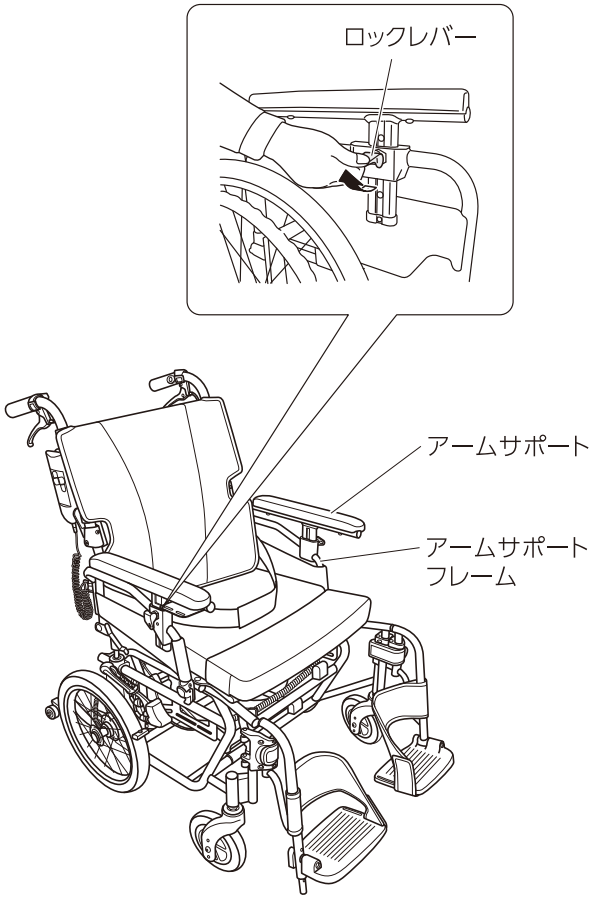
2 アームサポートを支えながら、ロックレバーを引いてロックを解除します。

3 アームサポートを上下に動かして、高さを調節します。

4 希望の高さに調節したら、ロックレバーを押し下げます。

5 アームサポートを軽く上下に動かして、ロックレバーがいっぱいまで下がり、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。

※反対側も同様に調節してください。



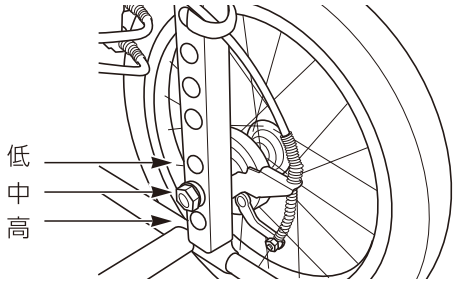
座面の高さ調節

座面の高さを最大3段階に調節することができます。
座面の高さ調節は、主輪、キャスタ、転倒防止装置、前方転倒防止バーの取り付け位置をそれぞれ対応する高さ(低・中・高)に調節することで行います。

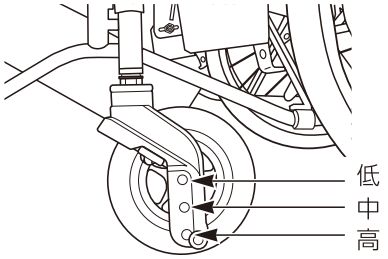
※主輪、キャスタ、転倒防止装置、前方転倒防止バーは、それぞれ左右同じ高さに調節してください。
※座面の高さを変更したら、必ず駐車用ブレーキの取り付け位置も併せて調節してください。

主輪とキャスタの調節範囲

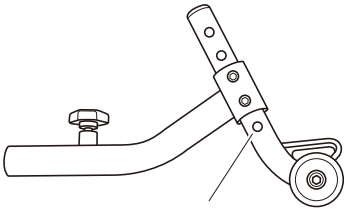
主 輪



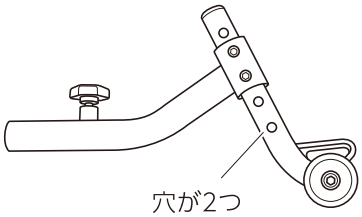
キャスタ



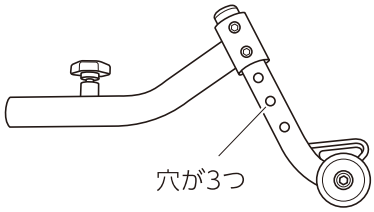
転倒防止装置の調節範囲



低

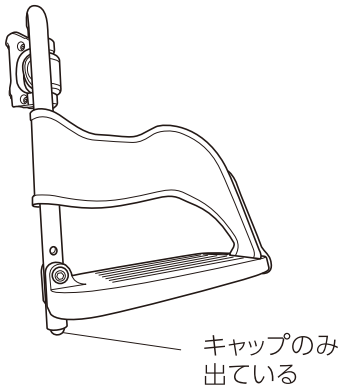


中

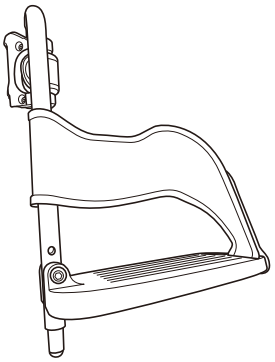


高

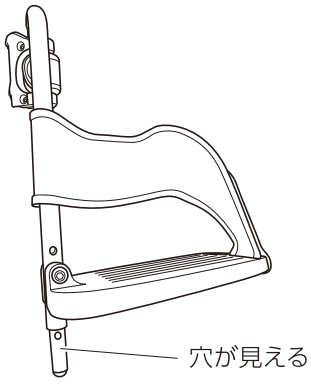
前方転倒防止バーの調節範囲



低



中



高

各部の調節のしかた

⚠危 険
- 主輪、キャスタ、転倒防止装置、前方転倒防止バーは、必ず対応する設定の位置に調節してください。主輪とキャスタの調節を誤ると、乗車時に転倒する恐れがあります。
- 使用者を乗せたまま調節を行うことは、絶対におやめください。

⚠警 告
- 座面の高さ調節は、必ず座面を完全に下降させた状態で行ってください。座面が上昇した状態で調節を行うと、車輪やキャスタを外したときに車いすが不安定になり、車いすが転倒することがあります。

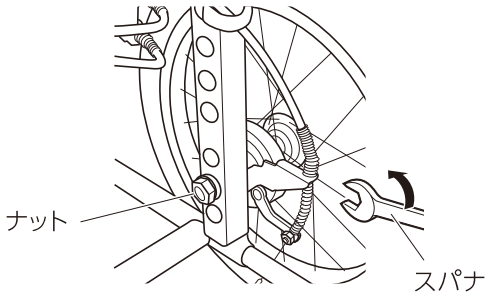
主輪の高さを変える

使用する工具：スパナ（19mm）2本

⚠警 告
本製品は駐車用ブレーキにワンハンドブレーキを使用しているため、主輪の取り外しは駐車用ブレーキを解除した状態で行います。主輪の高さを変える際は、車いすが動かないように、反対側の主輪に車止めを置くなどの対策を行ってください。

1 主輪の車軸外側をスパナでおさえたまま、車軸内側のナットをスパナで回して外し、主輪を引き抜きます。

※このとき、制動用ブレーキも一緒に取り外します。



2 主輪を取り付ける穴を決め、主輪の車軸を制動用ブレーキに通して、本体フレームに差し込みます。

3 車軸内側に平ワッシャー、スプリングワッシャー、ナットの順に取り付け、車輪外側をスパナでおさえたまま締めこみます。

※締め付けトルク：20.0～24.0N.m

4 主輪（駆動輪）が確実に固定されていることを確認します。

※反対側も同じ高さに調節してください。

駐車用ブレーキの取り付け位置を調節する

座面の高さを調節すると、主輪と駐車用ブレーキの距離が変わります。必ず駐車用ブレーキの取付位置を調節してください。

使用する工具：スパナ(10mm)

> ⚠警告　ブレーキの効き具合を随時点検して、効きが悪い場合は、ブレーキの取付位置を調節してください。

1 駐車用ブレーキの内側のナット(2本)をスパナでゆるめます。

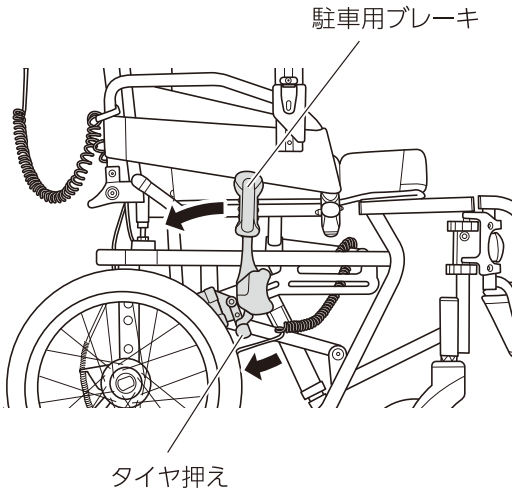
2 駐車用ブレーキをかけたときに、駐車用ブレーキのタイヤ押さえがタイヤに当たり、主輪がしっかり止まる位置に調節します。

3 ナット(2本)を締め、駐車用ブレーキがガタつかず、確実に固定されていることを確認します。

※締め付けトルク：5.0～6.0N.m

4 駐車用ブレーキをかけて、主輪がしっかり止まっていることを確認してください。

※駐車用ブレーキをかけても主輪が止まらない場合、または駐車用ブレーキが効きすぎる場合は、再度調節してください。
※反対側も同様に調節してください。



キャスタの高さを変える

使用する工具：六角レンチ(4mm)、スパナ(10mm)

1 両側の駐車用ブレーキをかけます。

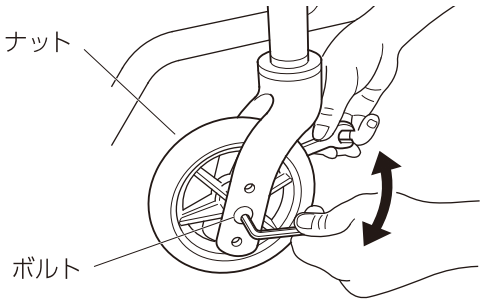
2 ボルトの頭を六角レンチで固定しながら、反対側のナットをスパナで回して外し、ボルトを引き抜きます。

3 キャスタを動かして、「駆動輪(主輪)とキャスタの調節範囲」に従って、駆動輪(主輪)と同じ高さ設定になる取り付け穴にボルトを差し込み、ナットを締め込みます。

※締め付けトルク：4.5～5.0Nm

4 キャスタが確実に固定されていることを確認してください。また、キャスタがスムーズに回転することを確認してください。

※反対側も同じ高さに調節してください。



フットサポートの高さ調節／前方転倒防止バーの高さを変える

フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。
また、座面の高さを変更した際は、座面に高さに応じて、前方転倒防止バーの位置を調節してください。
(⇒P.23「座面の高さ調節」)

使用工具：六角レンチ(5mm)

⚠警告
- 必ず前方転倒防止バーを装着した状態で使用してください。
- 前方転倒防止バーは、必ず座面の高さに対応した位置に調節してください。正しい位置に調節しないと、段差を超える際に車いすに衝撃を与えたり、車いすが前方に転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

1 フット・レッグサポートを本体から取り外します。
(⇒P.15 「フット・レッグサポートの開閉・取り外し」)

2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。

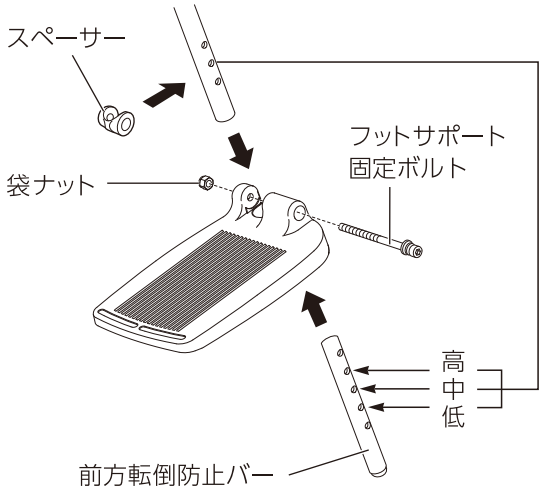
3 フットサポート固定ボルトを外すと同時に、フット・レッグサポートから前方転倒防止バーが外れます。
前方転倒防止バーの落下に注意してください。

4 脚の長さに合わせて、フットサポートの高さを調節します。

5 前方転倒防止バーを挿入して、座高の高さに応じた位置に合わせます。
(⇒P.23 前方転倒防止バーの調節範囲」)

6 希望の高さの穴を決めたら、フットサポート固定ボルトを差し込み、袋ナットと共に締め付けて固定します。
※反対側も同様に調節してください。

7 フット・レッグサポートを車いすに取り付けます。
(⇒P.15 フット・レッグサポートの開閉・取り外し)

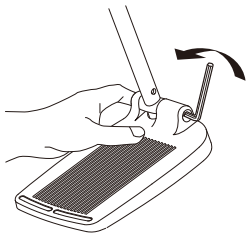


フット・レッグサポートの真ん中の穴と、前方転倒防止バーの穴を調整する座高の設定に合わせる

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。
反対側からナットが飛び出してきたら、袋ナットを指で押さえておきます。



> ⚠注 意　ボルトが袋ナット側に突き出ているときは、袋ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。

2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

取り付けるとき

- フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

転倒防止装置の高さを変える

座面の高さ調節を変更した際は、座面に高さに応じて、転倒防止装置の位置を調節してください。

使用する工具：六角レンチ(4mm)、スパナ(8mm)

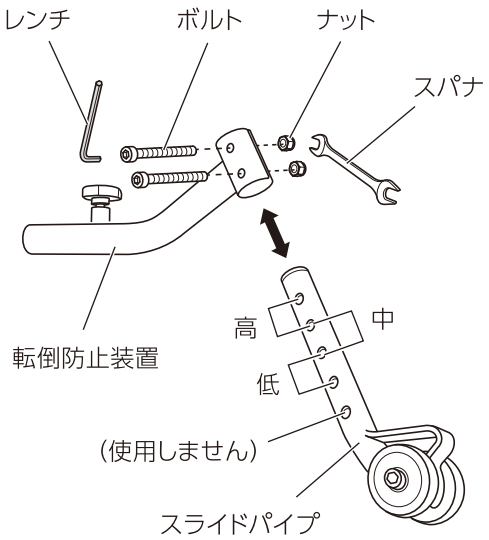
1 転倒防止装置(2本)を、本体から外します。
(⇒「P.21　転倒防止装置の取り付け・取り外し」)

2 2ヶ所あるボルトの頭を六角レンチで固定しながら、反対側のナットをスパナで回して外し、ボルトを引き抜きます。

3 「転倒防止装置の調節範囲」に従って、スライドパイプを指定された高さ設定になる取り付け穴にボルトを差し込み、ナットを締めて固定します。

4 スライドパイプが確実に固定されていることを確認してください。
※2本とも同様に調節してください。

5 転倒防止装置(2本)を、ティッピングレバーに差し込み、ノブボルトで締め付けて固定します。
(⇒「P.21　転倒防止装置の取り付け・取り外し」)



バックサポートの張り具合調節

バックサポートにはテンション式背シートを装備しています。テンション式背シートの張り具合を適切に調節することにより、バックサポートが使用者の体にフィットして、疲れにくく安定した姿勢を保つことができます。

※調節は使用者を乗せた状態で行ってください。
※アウターシートを外して調節を行うと、効果を確認しやすくなります。

⚠警 告

- バックサポートの張り具合調節は、必ず座面を完全に下降させた状態で行ってください。座面が上昇した状態で調節を行うと、使用者の姿勢が適切に保てないだけでなく、調節中に使用者が転倒する恐れがあります。

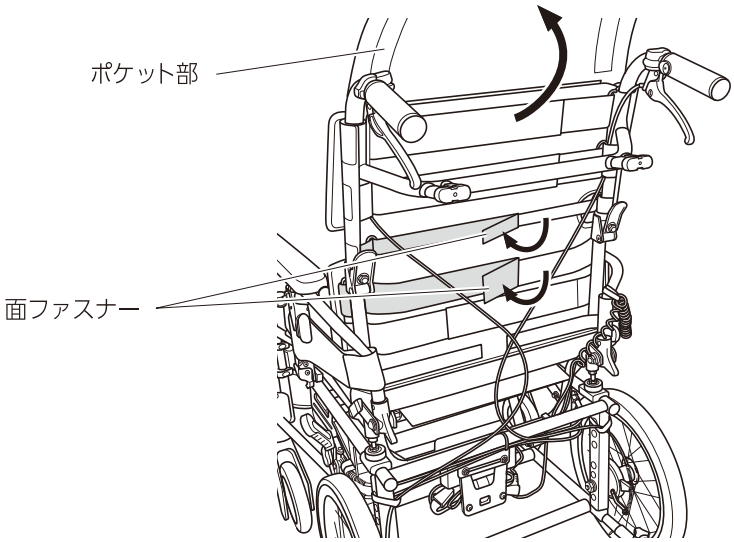
⚠注 意

- 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- 面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、十分に車いすが開かなくなり、フレームの変形の原因になります。

バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。

2 背アウターシートのポケット部をめくり上げます。



3 面ファスナーをはがして、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

※手でバックサポートを押して、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認ください。

4 背アウターシートのポケット部を元に戻します。

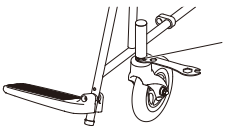
※過度の調節(ゆるめすぎ、締めすぎ)はかえって姿勢を崩すことになります。十分注意して行ってください。

使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備して、常に安全な状態で使用してください。
※修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠警 告　キャスタの旋回軸やキャスタ、主輪（ホイール）、ブレーキ、各調節部等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



- 使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
- 車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、屋外、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。

駐車用ブレーキの作動確認

- 駐車用ブレーキレバーを操作して、確実にブレーキがかかることを確認してください。

各調節部分が固定されていることの確認

- 各調節部分を確認して、確実に固定されていることを確認してください。

消耗品、交換部品の確認

⚠警 告　交換部品を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

- それぞれの部品が交換時期を迎えたときは、お早めに部品を交換してください。
- 新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へ連絡してください。
- バッテリの交換は、お買い上げの販売店へ依頼してください。

消耗品・交換部品

品 名	交換時期
主輪（ホイール）	• タイヤの表面に溝がなくなったとき。 • タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスタ	• 表面の摩耗が著しいとき。 • しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。

品 名	交換時期
シート	• ほつれ、切れ目が発生したとき。 • ひどく汚れたとき。 • 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	• ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

⚠注 意
- シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
- 車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

フレームのお手入れ

- フレームの汚れは、中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- バッテリ、アクチュエータ部の汚れは、乾いた布で拭き取ってください。

使用上のご注意

シートのお手入れ

- シートの汚れは、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。
- 面ファスナーに糸くず、汚れ等が付いた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- フリースなど毛羽の長い衣服で車いすをご利用になる場合に、車いすのシートと衣服の相性や静電気の影響などによって、シート生地に毛羽が付着することがあります。毛羽が付着した際は、衣服用ブラシなどで付着した毛羽を取り除いてください。

アームサポート、グリップの樹脂部品のお手入れ

- 樹脂部品・カーボン部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠注 意
- シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
- 車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干ししてください。

タイヤのお手入れ

- タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾かしてください。

⚠警 告
タイヤなどのゴム部品や樹脂部品は、濡れたまま放置したり、ひび割れが見られる状態で使用を続けますと、樹脂内部に水分が侵食して加水分解を起こして、部品の劣化が早まります。症状が見られましたらお早めに部品を交換してください。

保管・収納について

- 収納スペースが少ないときは、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- 錆や劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温が上がる場所、直射日光の当たる場所には保管しないでください。

航空機への搭載について

- 本製品を使用して航空機へ搭載する場合は、必ず事前に搭乗予定の航空会社へ連絡して、航空会社の指示に従ってください。
  バッテリは、預け入れ荷物や機内への持ち込みが制限されることがあります。(搭載可否判断の権限は航空会社にあります)
- 搭乗時にはバッテリの取り外し・絶縁が必要な場合があります。
  処置につきましては、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。
- 航空会社へは必要に応じて、本製品 (本体・バッテリ) の仕様をお知らせください。(⇒「P.35 仕様」)

日本国外の使用について

- 本製品の充電器は、AC100～240Vに対応しています。
- 必要に応じて、渡航先の電源仕様に対応した変換アダプタ等をご用意ください。
- 本製品の保証は日本国内においてのみ有効です。
  This guarantee is valid only within Japan.

走行上のご注意

⚠危険　座面を上昇させた状態で、車いすの移動、段差の乗り越えおよび車いすを持ち上げたりしないでください。使用者が転倒して、事故やけがにつながる恐れがあります。

車いすの走行について

⚠危険
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には十分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャスタのはさみ込みには十分注意してください。

⚠警告
- 車いすは道路交通法上、歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう十分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認したうえで、停車せず にまっすぐ通過してください。
- エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- 公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。

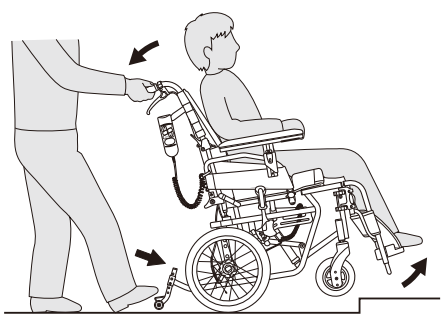
段差介助のしかた

⚠警告　持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポートなどは持たないでください。

⚠注意　本製品は特性上、一般的な車いすよりもフットサポートと地面との空間が狭く作られています。やむを得ず段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくりと操作してください。

1 必要に応じて、転倒防止装置を取り外します。
（⇒「P.21　転倒防止装置の取り付け・取り外し」）

2 足元のティッピングバーをに押し出すように踏み込みながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスタを段の上にあげます。



3 駆動輪（主輪）を段に当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

※無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

4 転倒防止装置を外した場合は、上がり終えたあと、元の位置に取り付けます。

使用上のご注意

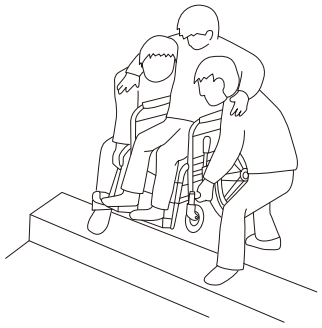
車いすの持ち上げかた

⚠警 告　車いすを持ち上げる場合は、必ずフレームを持ってください。フレーム以外の部品（主輪、スポーク、アームサポート、手押しハンドルなど）を持って持ち上げると、車いすの破損や落下、転倒による事故につながる恐れがあります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

車いすに乗ったまま持ち上げる場合は、二人以上で行い、使用者の上半身を支えながら、フレームの下部を両側から持ち上げるようにしてください。

※使用者の両腕をそれぞれの介助者の肩にかけると、持ち上げる際の介助者の負担が軽くなります。



本製品の処分について

車いす本体・充電器の処分

本製品の処分につきましては、最寄りの自治体担当窓口までお問い合わせのうえ、自治体の指示に従って廃棄してください。

バッテリの処分

寿命を迎えたバッテリ、使用しなくなったバッテリの処分につきましては、お買い上げの販売店、または弊社へお問い合わせください。
リチウムイオンバッテリは、貴重な再生資源を含むリサイクル可能なバッテリです。

困ったときには

車いすをご使用されていて、「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡する前に下記項目を確認してください。

症　状	確認点	対処のしかた
車いすがまっすぐ走らない。斜行する。	路面が傾斜していませんか。車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。 傾斜面の低い側にあたる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	斜行する側の駐車用ブレーキがかかっている状態で走行していませんか。	駐車用ブレーキを解除してください。
	斜行する側の制動用ブレーキレバーを握ったまま走行していませんか。	制動用ブレーキレバーを放してください。
	キャスタの回転に左右差がありませんか。キャスタ軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	搭乗した状態でキャスタ、駆動輪（主輪）の計4輪がきちんと接地していますか。	
駐車用ブレーキが効かない。	駆動輪（主輪）のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	駐車用ブレーキのタイヤ押さえが駆動輪（主輪）にきちんと当たっていますか。駐車用ブレーキがガタついていませんか。	
	タイヤ押さえに変形や摩耗はありませんか。	
制動用ブレーキが効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。	本体や車輪とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するアクセサリーなどは、車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてください。
	可動部分の錆び・消耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩擦音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ボルト類のゆるみ等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	

困ったときには

症　状	確認点	対　処
座面が昇降しない。	バッテリの残量は十分にありますか。	バッテリを充電してください。
	ユニットのケーブルが外れていませんか。	接続してください。
	バッテリの充電はされているが、アクチュエータが作動していますか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
	ユニットのコードが折れ曲がっていたり、断線していませんか。	
座面の昇降時に異音がする。	アクチュエータが故障、衝撃による変形などが起こっていませんか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
下降したとき、座面が左右に傾く（水平にならない）。	座面下のノブボルト（ストッパー）が左右均等に当たっていますか。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
バッテリが充電できない。 充電器のランプが点灯しない。	バッテリまたは充電器に異常が発生していませんか。	使用を中止して、速やかにお買い上げの販売店へ連絡してください。
	電源をつないだとき、充電器のランプが赤色、または緑色に点灯していますか。	
	電源プラグがコンセントから抜けていませんか。	AC100Vコンセントに電源プラグを差し込んでください。
	ACコードのコネクタが充電器から抜けていませんか。	充電器にコネクタを差し込んでください。
	充電器の充電コネクタがバッテリから抜けていませんか。	バッテリにコネクタを差し込んでください。
バッテリの充電がすぐに終わる。	充電済のバッテリを充電していませんか。	再充電しても充電がすぐに終わる場合は、充電が完了しています。
充電が待機状態から進まない。	走行直後などでバッテリの温度が高くなっていませんか。	温度が下がるまで涼しいところで待機してください。
	炎天下や高温下で充電していませんか。	涼しいところに移動させてください。
煙が出たり異臭がする。		バッテリから充電コネクタを外してください。
		使用を中止して、速やかにお買い上げの販売店へ連絡してください。
バッテリから警報音が鳴る。	バッテリの残量が低下した状態で作動します。	バッテリを充電してください。
	バッテリから漏電、またはバッテリに過剰な負荷がかかっている可能性があります。	使用を中止して、速やかにお買い上げの販売店へ連絡してください。

仕　様

車いす

機種名　KJP-14ETM

フレーム材料	アルミ
シート材料	ポリエステル、PVC
アームサポートタイプ	開閉式（ウイング）
アームサポート	ウレタン
サイドガード	ポリエステル
グリップ	PVC
バックサポート	テンション調整式
背折れ	あり　レバー式
フット・レッグサポートタイプ	スイングアウト
フットサポート	軽量
キャスタ	ソフトフォーミング
タイヤ	ハイポリマータイヤ
制動用ブレーキ	あり　サーボブレーキ
ハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	ワンハンドブレーキ 伸縮延長レバー付き

（測定項目）　単位：mm

駆動輪（主輪）(inch)	14×1.5
キャスタ径 (inch)	6
前座高 ※1	405/430/455
後座高 ※1	385/410/435
シート奥行	400
シート幅 ※2	460 (440)
バックサポート高 ※1	480
フットサポート・シート間距離 ※1	330/350/370
アームサポート高 ※1	250/270/290
全高	950
全幅	630
全長	1055
折りたたみ全高	690
折りたたみ全幅	630
折りたたみ全長 ※3	660
重量（kg） ※4	19.0

※1　座クッションを除くサイズです。（クッション厚：60mm）
※2　アームパイプ内々の幅です。（　）は座シートの幅です。
※3　フット・レッグサポート、転倒防止装置を外した時のサイズです。
※4　バッテリを含めた重量です。

（アクチュエータ性能）

最長連続運転時間	約1分 ※A
使用温度範囲	10℃～40℃（結露のないこと）
保管温度範囲	-20℃～50℃（結露のないこと）
IP保護等級	IPX4

※A　連続運転のあと、最短9分間の休止が必要です。

バッテリ

バッテリ種類	リチウムバッテリ
バッテリ重量	0.55kg
バッテリ電圧	25.9V
バッテリ容量	1800mAh
使用温度範囲	0℃～25℃（結露のないこと）
保管温度範囲	0℃～40℃

充電器

電源	入力	AC100-240V、2.0A　50/60Hz
	出力	29V、1.8A
使用電池／充電時間 ※B		リチウムバッテリ（充電時間：約3～6時間）
使用温度範囲		-10℃～50℃（結露のないこと）

※B　充電時間はバッテリが空の状態から満充電までの目安です。
※バッテリ・充電器については防水機能がありません。

アフターサービス

- 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名と故障状況を連絡してください。
- 保証期間内の修理につきましては、保証書の提示が必要です。

保証

- 保証内容につきましては、同梱の保証書をお読みください。
- バッテリは消耗部品につき、保証の対象外です。
- 保証期間終了後の修理につきましては、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
  修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。

製造元

Wheel Chair MiKi

株式会社　ミ　キ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号

2505-M01-ETM